

低圧進相コンデンサ

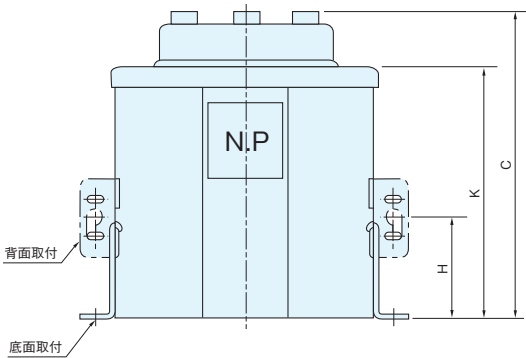
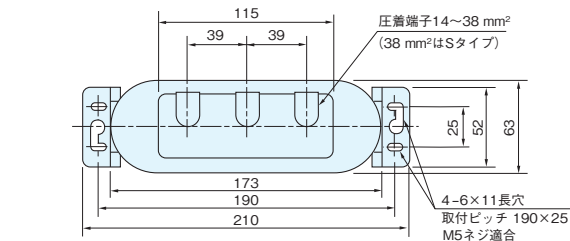
JIS C 4901「低圧進相コンデンサ」（2000年発行）の規格改正から、受電設備用（kvar品）として使用する低圧進相コンデンサは、直列リアクトル（L=6 %）を接続することが原則となり、直列リアクトル接続による電圧上昇および設備容量を考慮して定格が定められています。

200 V級 N2形（kvar容量） **乾 式** **L=6 %対応品**

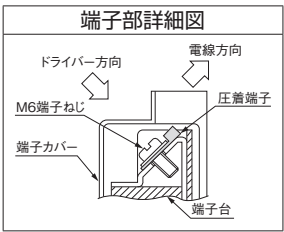
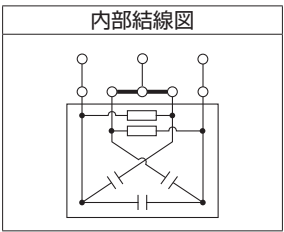
規格・性能

設置場所	屋内用、標高2000 m以下
周囲温度	-25~+45℃（24時間平均35℃以下、1年間平均25℃以下）
最高許容電圧	定格電圧の1.10倍（24時間のうち8時間以内） 定格電圧の1.15倍（24時間のうち30分以内） 定格電圧の1.20倍（5分以内） 定格電圧の1.30倍（1分以内） ただし、1.15倍を超える電圧の印加は、コンデンサの寿命を通じて200回を超えないものとする。
最大許容電流	定格電流の1.3倍とする。ただし静電容量の実測値が許容差の範囲内でプラス側のものは、その分だけ更に電流の増加を認める。
容量許容差	定格値に対して-5~+10%（相間不平衡率108%以下）
損失率	0.15%以下（at 20℃）
放電特性	端子開放後、その残留電圧を3分間で75 V以下にします。
保安性	JIS C 4901の8.13項を満足します。
外塗色	マンセル N1.0色
準拠規格	JIS C 4901（2013）

寸法図(mm)



(注)・絶縁外装のため接地工事は不要です。
・端子の締付トルクは3±0.6 N・mとします。



定格寸法表〈単器形〉

L=6 %対応品 三相 屋内用 放電抵抗内蔵 保安機構付

回路電圧 (V)	定格電圧 (V)	周波数 (Hz)	定格容量		品 番	定格電流 (A)		寸 法 (mm)			質 量 (kg)
			kvar	μF		50 Hz	60 Hz	C	H	K	
220	234	50 / 60	5.32 / 6.38	309	BY2316R3KC1	13.1	15.7	203	65	165	2.0
			6.65 / 7.98	386	BY2317R9KC1	16.4	19.7				
		60	8.86	429	BY2318R8KB1	—	21.9				

●10 kvar以上の大容量品を必要とされる場合は、上記の単器形コンデンサを集合してご使用ください。
なお、この場合の構成例を下記に示します。

回路電圧 (V)	定格電圧 (V)	周 波 数 (Hz)	定格設備容量 (kvar)	定格容量 (kvar)	構 成
220	234	50 / 60	10 / 12	10.6 / 12.8	(5.32 / 6.38) × 2
			15 / 18	16.0 / 19.1	(5.32 / 6.38) × 3
			20 / 24	21.3 / 25.5	(5.32 / 6.38) × 4
			25 / 30	26.6 / 31.9	(6.65 / 7.98) × 4
			30 / 36	31.9 / 38.3	(5.32 / 6.38) × 6
		50	50	53.2	(6.65 / 7.98) × 8
		60			(8.86) × 6

(注) 1. 集合にてご使用になる場合は温度上昇を考慮してコンデンサ相互の間隔を15 mm以上離して空気の流通を良くしてください。
2. 端子部に力がかからないよう、結線はフレキシブルな電線を使用してください。(銅バー等による直接接続は行わないでください。)
3. 定格設備容量とは、コンデンサと直列リアクトルを組み合わせた設備の、定格電圧および定格周波数における設計無効電力を示します。
4. 本コンデンサは、下図のとおり取り付けてください。

